

商店街に旗を立てよう2021

(担当：子ども家庭部 児童青少年課 熊野前ひろば館)

事業の背景・目的

【事業の目的】

- ・隣接する商店街と連携し、地域の中で世代を超えた交流をはかる。
- ・子どもが作成した旗の鑑賞により、友達や家族、地域の方々とのふれあいの場を創出する。
- ・幼児から中高生までが、旗制作を通じて同じ目標に取り組むことで交流の場とする。
- ・商店街の賑わいを創出するとともに、地域の中での「ひろば館の認知度」を高める。

【事業の背景】

コロナ禍で、地域との協働や異年齢の直接的な交流等が難しい中、令和2年度は各事業の中止や規模の縮小、内容を変えての実施など、これまでとは違った運営を余儀なくされた。これらの事業について、少しでも事業目的の達成に近づけるため「今できるかたち」を模索し、新規事業として企画し実施することとした。

事業の概要

【事業の内容】

- ・米詣りる子ども（幼児～中高生までが対象）が、のぼり旗に思い思いの絵を描く。
全ての旗には、1文字ずつ違う平仮名を書き込む。
- ・隣接する商店街の街灯に、子どもたちが制作したのぼり旗を設置する。
- ・地域の方々、来館する子どもとその家族等が商店街を巡り、のぼり旗を鑑賞する。
- ・のぼり旗の鑑賞と合わせて、旗に書いてある平仮名で、言葉あつまめゲームを行う。
- ・あつめた言葉を、ひろば館に持ってくると、景品(*)がもらえる。

(*) 子ども会議での意見を反映。子どもたちでビーズアクセサリーを制作する。

【事業の実施場所】

- ・はっぴいもーる熊野前商店街（のぼり旗が、通り全体に34本立ち並ぶ）
- ・熊野前ひろば館（言葉あつまめゲームの回答を受け付ける）

【実施スケジュール】

- ・のぼり旗制作（8月18日～9月15日） 来館する子どもが制作
- ・のぼり旗設置（9月27日～9月29日） 子ども会議参加児童で設置
- ・出前ひろば館（9月29日） 言葉集めゲームの宣伝活動等
- ・言葉集めゲーム（10月1日～10月31日） 乳幼児親子は9月30日から先行実施
のぼり旗は、商店街のクリスマスイルミネーションが始まる11月中旬まで設置

【実施体制・その他】

- ・荒川区直営館
- ・各実施日の出勤職員でローテーション（常勤3人、非常勤4人）
- ・事業実施にあたり必要な物品等は、年度内予算（消耗品費）から調達

工夫点・留意点

【工夫点】

- ・のぼり旗の設置だけでなくゲーム性を持たせることで参加意欲の促進を図る。
- ・のぼり旗の素材を透明のビニールにすることで、鮮やかな色がどの方向からでも見えるよう工夫する。

【留意点】

- ・台風シーズンのため、設置するのぼり旗の破損等による通行人への被害が無いよう留意する。
- ・旗はビニール素材を使用するため、高い気温や雨等により劣化や滲みが無いよう、入念に試験を行う。
- ・商店街の各店舗の営業に影響の無いよう、理事会と綿密に調整をし、旗の設置期間や方法等を確認する。



【旗づくりの様子】



【言葉集め記入カード】

事業の効果

- ・コロナ禍において、直接ふれあう地域交流や異年齢交流の実施は難しかったが、子どもたちが制作したのぼり旗を介して、間接的にふれあう交流ができた。
- ・のぼり旗を活用して、言葉集めゲームの要素を取り入れたことで、事業効果が高まった。
- ・自由来館の中学生が景品作りを手伝ってくれたため、自然な異年齢交流が生まれた。
- ・商店街の賑わい創出に寄与することで、地域との関係性が深まり、今後の事業展開において商店街の協力を得やすくなった。
- ・本行事を通して、地域（商店街）協働について改めて職員内での意識が高まった。
- ・旗の設置中に、地域の方がいらして、東尾久児童館（現：熊野前ひろば館）の設立に関する署名活動をした昔話を聞いた。現在も児童館として活動が継続されていることに感謝と激励の言葉をいただき、地域と繋がる喜びを実感することができた。
- ・地域における、熊野前ひろば館の認知度が向上した。



【旗設置の様子】

課題・今後の展開

【課題】

- ・新規事業として立ち上げたこともあり、職員主導で企画段階から進行した。事業効果をさらに高めるためには、子どもたち主導の行事として改良することが必要である。また、中高生が参加しやすい環境設定も課題として残っている。

【今後の展開】

- ・今回の行事を参考にしながら、「商店街を盛り上げるためには」等のテーマで子ども会議を開く等、子どもの意見を地域連携事業に反映させていきたい。
- ・企画や準備の段階から、小学校高学年や中高生を中心としたリーダーを立て、子ども主体で運営する地域連携の行事を作り上げたい。



【子ども会議メンバーによる景品作成】